

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2021年1月14日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自 2020年9月1日 至 2020年11月30日）
【会社名】	東海ソフト株式会社
【英訳名】	TOKAI SOFT CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊藤 秀和
【本店の所在の場所】	名古屋市西区新道二丁目15番1号
【電話番号】	052-563-3572（代表）
【事務連絡者氏名】	上席執行役員 経営管理本部 本部長 市野 雄志
【最寄りの連絡場所】	名古屋市西区新道二丁目15番1号
【電話番号】	052-563-3572（代表）
【事務連絡者氏名】	上席執行役員 経営管理本部 本部長 市野 雄志
【縦覧に供する場所】	東海ソフト株式会社 東京支店 （東京都港区浜松町二丁目2番12号J E I 浜松町ビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期累計期間	第52期 第2四半期累計期間	第51期
会計期間	自2019年6月1日 至2019年11月30日	自2020年6月1日 至2020年11月30日	自2019年6月1日 至2020年5月31日
売上高 (千円)	3,335,795	3,318,027	6,730,900
経常利益 (千円)	276,082	269,977	493,818
四半期(当期)純利益 (千円)	180,933	176,286	377,310
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	645,586	826,583	826,583
発行済株式総数 (株)	4,673,600	4,920,300	4,920,300
純資産額 (千円)	2,917,184	3,567,524	3,469,257
総資産額 (千円)	4,851,677	5,118,751	5,487,447
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	38.71	35.83	79.69
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	15
自己資本比率 (%)	60.13	69.70	63.22
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	50,050	329,000	427,000
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	62,615	588,685	663,395
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	100,493	134,674	185,347
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,175,312	1,184,963	2,237,324

回次	第51期 第2四半期会計期間	第52期 第2四半期会計期間
会計期間	自2019年9月1日 至2019年11月30日	自2020年9月1日 至2020年11月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	23.79	30.83

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載を省略しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 当社は、2019年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。なお、第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

6. 当社は、2020年2月27日付での東京証券取引所市場第一部及び名古屋証券取引所市場第一部に銘柄指定に伴い、2020年2月26日を払込期日として、普通株式197,000株の公募増資を実施しております。また、当該公募増資に伴うオーバーアロットメントによる株式売出しに関連して、2020年3月24日を払込期日として普通株式49,700株の有償第三者割当増資を実施しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、国内外での新型コロナウイルス感染症拡大の第一波の影響を受け国内製造業の業績が大幅に悪化したしましたが、直近の全国企業短期経済観測調査による大企業・製造業の業況判断指数(DI)はマイナス値ではあるものの、6月を底に景況感の持ち直しを示しております。前事業年度まで輸出関連を含む国内企業の生産設備やサービスインフラ等に対し堅調に推移してきた積極的な設備・開発投資は、新型コロナウイルス感染症拡大の第1波から第3波へと断続して起こる感染拡大の波の影響を少なからず受け先行き不透明な状況が続いております。一方、一部先進国ではワクチンが開発、承認、接種が開始されており、今後の感染症拡大の収束に期待がもたれております。国内におきましては、政府の施策により感染症拡大防止と経済活動推進の両輪を進める努力がなされ、先行き不透明な中でも、光明と不安が交錯する状況と言えます。

当第2四半期累計期間における当社の属するソフトウェア業界は、国内企業がサービスを主体とする事業構造への変革や競争力の強化を目的として、積極的に製品開発や設備投資を進めてきた基本的な姿勢には大きな変化は見られないものの、大幅な業績悪化に陥った企業をはじめ個々の業種の企業において、業績の落ち込みからの回復状況にばらつきが見られ、事業計画の見直し等により関連するIT投資の姿勢にも変化が見られる状況となっております。将来にわたる企業競争力の強化を目的とした事業のデジタル化(デジタル・トランスフォーメーション)関連のシステム投資はポストコロナを見据えた企業を中心に底堅く推移しており、関連する当社事業分野におけるソフトウェア開発に係る需要は、当第2四半期累計期間も旺盛な状況であります。今後は、新型コロナウイルス感染症拡大第3波への施策と開始されたワクチン接種等の影響が国内外の経済環境に与える影響と、これに呼応した国内企業のシステム投資計画に対する変化に引き続き注視して参ります。

当第2四半期累計期間における各事業分野の事業の状況と取り組みとしまして、1) 組込み関連事業につきましては、車載向け組込み関連開発体制の強化の結果、順調に拡大を続けて参りました自動運転関連開発、AUTOSAR準拠の国産車載ソフトウェアプラットフォーム、モデルベース関連開発等の新技術を活用した開発案件の売上がコロナ禍による顧客業績の悪化や予算執行の見直し等により緩やかに落ち込むと共に、産業機器に係る組込み開発におきましても、機器メーカーの新製品開発や製品改良、製品開発の計画に変化が見られる状況が継続しております。このような状況の下、車載組込み開発におきましては、国内自動車メーカーの業績が回復に転じ、今後のソフトウェア開発の受注回復が期待されることから、主要顧客の開発計画の見直しや予算の執行状況等について十分な注意を払いながら今後の業績の拡大を目指して参ります。2) 製造・流通及び業務システム関連事業につきましては、コロナ禍においても産業向けパッケージソフトウェア及び製造実行管理パッケージソフトウェアの関連開発の売上が継続したことから、当該開発関連の業績は底堅く推移し、今後も積極的に受注と売上の拡大を目指して参ります。また、国内製造業の競争力強化を目的とした事業のデジタル化のためのシステム投資は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け企業個別に投資計画の見直しが見られましたが、新規顧客や代替開発案件の受注に努めその影響を最小限に留めており、全般として産業系システム関連開発の売上は堅調に推移いたしました。今後は、ポストコロナで課題とされる事業のデジタル化への商機として、「FlexSignal」に関する利活用のノウハウを取りまとめた「+FORCE(プラスフォース)」を起点とした提案活動を積極展開し新規顧客拡大を目指すと共に、顧客毎のシステム開発投資の変化に柔軟に対応し、関連分野での業績拡大を目指して参ります。3) 金融・公共関連事業につきましては、顧客常駐先において新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業所の一時閉鎖や自宅待機等の影響を受け、技術者の稼働が落ち込み売上が減少した状況から、稼働は通常状態に復帰し、公共関連開発事業において新たな開発案件を積極的に受注したことにより、事業環境は堅調な状況を維持しております。当事業区分は他の事業区分に比べ景気変動の影響を受けにくいことから、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大に対する政府予算の再配分等を注視しながら、政府が提唱する「行政のデジタル化(デジタル・ガバメント実行計画等)」への参画も視野に安定的な売上の確保に努めて参ります。4) 全社的取り組みにつきましては、技術開発力の持続的な発展のために人材育成へ注力することをテーマに進めて参りました品質管理手法(PMBOK)を、より効率的かつ厳格な原価・工程・品質の管理手法へ進化させ、プログラム開発業務の改善による品質管理の向上により生産性と収益性の改善を進めて参ります。また、これまで労働環境の改善に一定の効果を挙げて参りました「働き方改革」を、今後はコロナ禍が推し進めた時差出勤や在宅勤務等の新しい働き方への評価・検証へと展開し、将来に向けた労働環境づくりに挑戦して参ります。なお、当社事業の根幹をなす開発技術者の採用におきましても、コロナ禍の中でWEB面接を積極的に取り入れ広く新卒・中途採用を進めており、引き続き優秀な人材の確保に努めて参ります。

なお、当社はソフトウェア開発事業の単一セグメントであるため、当社事業区分別の経営成績について、以下に記載いたします。

#### <組込み関連事業>

車載関連開発、民生・産業機器関連開発共に、新型コロナウイルス感染症拡大によりエンドユーザーであるメーカーの新製品や新技術に関する開発投資が見直された影響により、組込み関連事業の売上高は、1,200,696千円（前年同四半期比7.6%減）となりました。

#### <製造・流通及び業務システム関連事業>

新型コロナウイルス感染症拡大による影響はみられるものの、国内の製造・流通業における設備投資に関連する製造関連業務システム開発は当第2四半期累計期間も堅調な状況を維持したことから、製造・流通及び業務システム関連事業の売上高は、1,708,215千円（前年同四半期比10.2%増）となりました。

#### <金融・公共関連事業>

公共関連開発に係る発注は堅調であります。一部の開発要員を製造・流通及び業務システム関連の開発に振り分けたことにより、金融・公共関連事業の売上高は、409,115千円（前年同四半期比15.9%減）となりました。

この結果、当第2四半期累計期間における経営成績は、売上高3,318,027千円（前年同四半期比0.5%減）、営業利益251,377千円（前年同四半期比8.3%減）、経常利益269,977千円（前年同四半期比2.2%減）、四半期純利益176,286千円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

#### （資産）

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ368,695千円減少の5,118,751千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が289,700千円増加、有形固定資産が581,782千円増加した一方、現金及び預金が1,052,359千円減少、電子記録債権が48,891千円減少、繰延税金資産が70,265千円減少したことによるものであります。

#### （負債）

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ466,962千円減少の1,551,226千円となりました。これは主に、未払費用が96,710千円減少、未払法人税等が21,960千円減少、その他に含めて表示している未払消費税等が63,912千円減少、役員退職慰労引当金が85,544千円減少したことによるものであります。

#### （純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ98,267千円増加の3,567,524千円となりました。これは主に、利益剰余金が102,486千円増加した一方、その他有価証券評価差額金が4,219千円減少したことによるものであります。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1,052,360千円減少し、1,184,963千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果使用した資金は、329,000千円（前年同四半期は50,050千円の収入）となりました。これは主に、売上債権の増加額240,808千円があった一方で、役員退職慰労引当金の減少額が85,544千円、未払費用の減少額96,671千円があったことによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、588,685千円（前年同四半期は62,615千円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出634,241千円があったことによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、134,674千円（前年同四半期は100,493千円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が59,669千円、配当金の支払額が73,479千円あったことによるものであります。

### (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、9,920千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,400,000
計	10,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2020年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年1月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	4,920,300	4,920,300	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	4,920,300	4,920,300	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年9月1日～ 2020年11月30日	-	4,920,300	-	826,583	-	773,583

(5) 【大株主の状況】

2020年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
水谷 慎介	愛知県春日井市	864	17.56
東海ソフト社員持株会	名古屋市西区新道二丁目15番1号	759	15.44
伊藤 秀和	愛知県犬山市	326	6.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	140	2.85
長尾 正己	愛知県あま市	134	2.72
株式会社ネクスティエレクトロニクス	東京都港区港南二丁目3番13号	103	2.10
大川 稔	東京都町田市	100	2.03
仁井田 博義	茨城県稲敷市	50	1.01
仲原 龍	愛知県一宮市	49	1.00
野島 誠	埼玉県八潮市	47	0.95
計	-	2,574	52.33

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,918,100	49,181	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	4,920,300	-	-
総株主の議決権	-	49,181	-

【自己株式等】

2020年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
東海ソフト株式会社	名古屋市西区 新道二丁目15番1号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

(注) 当社は、単元未満自己株式83株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）及び第2四半期累計期間（2020年6月1日から2020年11月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年11月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,355,876	1,303,516
受取手形及び売掛金	774,667	1,064,367
電子記録債権	95,729	46,837
商品	222	191
仕掛品	474,587	459,951
原材料及び貯蔵品	32,767	13,516
その他	94,212	95,343
流動資産合計	3,828,062	2,983,724
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	246,807	232,592
土地	123,243	123,243
建設仮勘定	626,523	1,231,538
その他(純額)	55,217	46,199
有形固定資産合計	1,051,791	1,633,573
無形固定資産	75,086	72,029
<b>投資その他の資産</b>		
繰延税金資産	304,480	234,215
その他	228,025	195,207
投資その他の資産合計	532,506	429,423
固定資産合計	1,659,384	2,135,026
資産合計	5,487,447	5,118,751

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	226,585	203,422
1年内返済予定の長期借入金	107,648	76,977
未払費用	561,196	464,485
未払法人税等	66,603	44,643
受注損失引当金	8,826	4,370
資産除去債務	-	12,448
その他	426,806	250,047
流動負債合計	1,397,664	1,056,394
固定負債		
長期借入金	59,181	30,183
退職給付引当金	334,737	338,072
役員退職慰労引当金	178,832	93,288
資産除去債務	27,203	14,995
その他	20,570	18,291
固定負債合計	620,524	494,831
負債合計	2,018,189	1,551,226
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	826,583	826,583
資本剰余金	943,729	943,729
利益剰余金	1,683,655	1,786,141
自己株式	211	211
株主資本合計	3,453,757	3,556,243
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,500	11,281
評価・換算差額等合計	15,500	11,281
純資産合計	3,469,257	3,567,524
負債純資産合計	5,487,447	5,118,751

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)
売上高	3,335,795	3,318,027
売上原価	2,575,293	2,587,299
売上総利益	760,501	730,728
販売費及び一般管理費	486,253	479,350
営業利益	274,248	251,377
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	878	1,271
投資有価証券売却益	-	12,263
その他	1,845	5,525
営業外収益合計	2,729	19,065
営業外費用		
支払利息	890	428
その他	4	36
営業外費用合計	895	464
経常利益	276,082	269,977
税引前四半期純利益	276,082	269,977
法人税、住民税及び事業税	84,504	22,024
法人税等調整額	10,644	71,667
法人税等合計	95,149	93,691
四半期純利益	180,933	176,286

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	276,082	269,977
減価償却費	20,607	33,310
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,287	3,335
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	9,750	85,544
受注損失引当金の増減額(は減少)	6,436	4,455
受取利息及び受取配当金	884	1,276
支払利息	890	428
投資有価証券売却損益(は益)	-	12,248
売上債権の増減額(は増加)	67,694	240,808
たな卸資産の増減額(は増加)	69,009	33,917
前払年金費用の増減額(は増加)	-	11,806
仕入債務の増減額(は減少)	16,522	18,940
未払金の増減額(は減少)	6,362	25,350
未払費用の増減額(は減少)	7,124	96,671
未払消費税等の増減額(は減少)	19,670	63,912
前受金の増減額(は減少)	3,523	32,506
預り金の増減額(は減少)	25,575	28,147
その他	8,499	5,478
小計	214,700	286,178
利息及び配当金の受取額	884	1,278
利息の支払額	864	462
法人税等の支払額	164,671	43,637
営業活動によるキャッシュ・フロー	50,050	329,000
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	79,939	79,940
定期預金の払戻による収入	79,938	79,939
有形固定資産の取得による支出	31,071	634,241
無形固定資産の取得による支出	24,444	6,128
投資有価証券の取得による支出	486	496
投資有価証券の売却による収入	-	33,234
保険積立金の払戻による収入	-	19,007
その他	6,613	60
投資活動によるキャッシュ・フロー	62,615	588,685
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	30,000	-
長期借入金の返済による支出	71,576	59,669
リース債務の返済による支出	508	1,525
自己株式の取得による支出	151	-
配当金の支払額	58,257	73,479
財務活動によるキャッシュ・フロー	100,493	134,674
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	113,059	1,052,360
現金及び現金同等物の期首残高	2,288,371	2,237,324
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,175,312	1,184,963

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症につきましては、8月以降減少傾向にあった感染者数が11月以降に増加に転じ、第3波となる新たな感染拡大の局面を迎えております。一方、種々の経済指標からは、国内景気が回復傾向にあることも読みとれ、当社では、「今般の感染拡大下においても、事業環境は改善に向かい、当事業年度末に向けてソフトウェア開発需要が正常化に向う」との想定のもと、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。上記について前事業年度から重要な変更はありません。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)
給料及び手当	222,395千円	230,102千円
賞与	38,874	31,347
役員退職慰労引当金繰入額	9,750	9,066
退職給付費用	4,181	4,599

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次の通りであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)
現金及び預金勘定	2,293,864千円	1,303,516千円
預入期間が3カ月を超える定期預金	118,551	118,552
現金及び現金同等物	2,175,312	1,184,963

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月12日 取締役会	普通株式	58,418	25	2019年5月31日	2019年8月30日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月11日 取締役会	普通株式	73,800	15	2020年5月31日	2020年8月31日	利益剰余金

(金融商品関係)

現金及び預金、受取手形及び売掛金が、企業の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、四半期貸借対照表計上額に前事業年度の末日と比較して著しい変動が認められますが、当第2四半期会計期間末の貸借対照表計上額と時価との差額及び前事業年度に係る貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ソフトウェア開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)
1株当たり四半期純利益	38円71銭	35円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	180,933	176,286
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	180,933	176,286
普通株式の期中平均株式数(株)	4,673,423	4,920,017

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 当社は、2019年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年1月14日

東海ソフト株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神野 敦生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石原 由寛

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東海ソフト株式会社の2020年6月1日から2021年5月31日までの第52期事業年度の第2四半期会計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）及び第2四半期累計期間（2020年6月1日から2020年11月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東海ソフト株式会社の2020年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結

論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。